茗溪学園　中学校・高等学校

“Study Skills を身につけさせる教育”　その９

教務部長　田代　淳一

茗溪学園流 Study Skills の最高次レベルは『価値観・認識の変容』『行動の変容』です。
茗溪学園の教育では、単なる技能の習得だけをよしとはしません。様々な Skills を駆使して学んでいく過程で価値観や態度なども変容させる、Affective な面での成長も大事にします。

高校２年の個人課題研究

茗溪 Study Skills の最終段階、高校２年の個人課題研究を舞台にしたエピソード、G さんの例を紹介します。

G さんの場合

G さんは中学入学時から寡黙な女の子でした。字がきれいで、何よりも絵が大変うまく入部した美術部（本校の美術部は 19 年連続で全日本学生美術展で最高賞を受賞するレベルです）でも非凡な才能を現し、中学生の段階からこの全日本学生美術展の個人賞に入賞していました。そういう特異な才能を持ちながらも相変わらず寡黙で、目立つことをとても嫌う控えめな生徒でしたが、例えば夏休みには自分の出身小学校でひそかに草取りしていたりする、実はとても細やかな心を秘めているそんな生徒でした。

次期美術部部長を嘱望されていた G さんが突然美術部をやめ、絵を一切描かなくなったのは高校１年の途中でした。理由を誰にも語らず、ますます寡黙になった G さんは個人課題研究のテーマ設定の際に私のところに相談に来ました。（個人課題研究は、高校１年の後半からテーマ設定に入り、指導担当の教師を何人か選んで相談に回らなければなりません。）長い時間をかけた面談で彼女が語り始めた内容は、人間に対する深い絶望感でした。

生きているものへの深い愛情を、様々な場面や成長に伴って広がってきた視野から見えるものによって傷つけられ、家族内の出来事も加わって深い悲しみの中にいたのです。純粋な彼女は、人類そのものの傲慢さ、他の生き物に対する傲慢さにも我慢できなくなり、ついには地球には人類は不要であると考えていました。

しかし何回かの面談を経て、世の中で起きている様々な現象の多面性、人類の絶望的な面を認めながらも未来を拓いていけると信じることの意味などを少しずつ語り合い、G さんは自らの疑問に応えられるテーマを探す勇気を取り戻していきました。そして彼女がみつけたテーマが“自然農法”。農業すら自然破壊と考え、否定していた G さんにとって、目が覚める思いのするテーマだったはずです。この農法は現代農業のことごとく反対の発想で、いっさい何もしない農法です。耕さない。種もそのまま播きます。勿論、肥料も加えないし雑草すら抜きません。太古の農業そのままの姿。当然、雑草がはびこりますし、

高校１年　農業巡検